

企業継続に向けた新事業展開に取り組む

金型管理システム「MOLDBANK」の開発で生産性向上



景山産業(株)
代表取締役
景山 傑氏

当社は創業以来、鋳型(鋳造用中子)を一貫して生産してきた。しかしながら、近年は自動車のEV化や各メーカーの海外進出により、国内の鋳物産業は縮小の一途をたどっている。また、大量生産品は海外製造が多く、国内ではより一層多品種少量生産の傾向が強まっている。

鋳物製品の製造において多品種を扱う場合、品種の数倍金型管理が必要となる。また、長期的な保管が必要で、当社での管理数は約1,000点にもものぼる。

しかし、実際の利用は3割程度であり、保管場所など無駄なコストが生じていた。また、金型の管理意識が低く、置き場所など、属人管理となっていることが当社の課題だった。

このような状況下で、新型コロナウイルスの影響を受け、売り上げが約3割減少となった。鋳造用中子の一貫生産体制では今後事業継続に問題が生じると考えていたため、売上減少により

不安が一気に膨れ上がった。新事業へ取り組む必要があることは日頃から意識しており、この状況に後押しされ、金型管理クラウドシステム「MOLDBANK(モールドバンク)」の開発に着手した。

金型管理については業界全体で課題となっており、2019年経済産業省が「型取引の適正化推進協議会」を設置するなど、型の廃棄、返却、保管費用について取引ルール適正化の動きも機運と感じた。開発後、自社保管金型の大半を登録し、不要な金型は所有者に打診して返却するなど、適正な金型管理の第一歩を踏み出した。同業者をはじめ、金型管理で困っている企業に向けて「MOLDBANK」を周知していく。

現在、当社ではデータベースやチャットツールを導入して全社的に情報共有を図り、生産性向上に向けて動いている。同業者に「MOLDBANK」の利用やDXに向けたサポートのため、ITコーディネーターの資格も取得。時代の流れを先読みし、新事業へ取り組んでいきたい。



約1,000点ある保管金型の一部